

◎ 放射線科専門研修プログラム

1. 画像診断科の特徴

放射線診療は臓器別診療形態の他科と異なり、あらゆる領域の疾患を幅広く扱う。当センターでは、放射線科は画像診断科・放射線治療科の2つの診療科に分かれており、画像診断科では画像診断・核医学及び Interventional Radiology (IVR) を行っている。

当センターは大阪府の基幹総合病院として、救命救急医療、循環器医療など緊急性の高い急性期医療や、難病、腎移植などの高度な専門医療にも取り組んでおり、また大阪府がん診療拠点病院としての役割も担っており、症例は多彩で症例数も多く、臨床研修としては有意義な内容を経験できる。

主な業務は MDCT2 台、MRI (1.5T) 2 台の検査読影、核医学検査読影 (2011 年度には PET-CT も導入される)、血管造影 (vascular IVR)、胆道系など non-vascular IVR、消化管造影、乳腺読影、超音波検査などである。

脳神経系、頭頸部、消化器・泌尿生殖器、呼吸器など各領域の読影や IVR の specialist がいる。

2. 専門研修目標

現在あらゆる診療科において画像診断・核医学及び Interventional Radiology (IVR) は必要不可欠な診療手段であり、放射線科専門研修では、病院全体の医学的・社会的ニーズに応じた放射線診療を提供するための知識と技術を幅広く身につけた放射線科専門医の育成を目標とし、画像診断全般・IVR ついて、放射線治療科における放射線治療学も含めて、より高度で専門的な臨床及び研究に備えたトレーニングを行う。

在籍期間は1年から可能だが、2年以上が望ましい。

臨床研究の学会発表や論文発表を推奨・指導する。院外の研修会・勉強会などへの参加も推奨する。

3. 専門医の取得

当科は放射線科専門医総合修練機関（診断・核医学および治療）である。

放射線科専門医（診断・核医学あるいは治療）は、日本医学放射線学会専門医認定制度に基づき、規定の修練期間及び認定試験を経て取得される。但し、初期研修の2年間は修練期間に含まれない。

初期研修後3年以上：「放射線科専門医」試験

「放射線科専門医」取得後2年以上： subspeciality である「放射線診断専門医」または「放射線治療専門医」試験

詳しい規定については下記学会ホームページを参考にされたい。

<http://www.radiology.jp/modules/senmoni/index.php/id%3D7>

4. 大阪大学大学院医学系研究科放射線統合医学講座の関連施設

当科は大阪大学大学院医学系研究科放射線統合医学講座の関連施設であり、大学を通じての専門研修も可能である。その場合大阪大学医学部附属病院及び以下の関連病院

(<http://www.radonc.med.osaka-u.ac.jp/hospital.html>)

(<http://www.radiol.med.osaka-u.ac.jp/recruit/hospital.html>) で研修を行う。

5. 後期研修後の進路

後期研修終了後は、本人の希望があれば、大阪大学統合医学講座（放射線医学講座もしくは放射線治療学講座）を通じて以下の様な進路がある。

- ① 当センターでの臨床に従事し、地域医療に貢献する。
- ② 大学で研究・教育にあたる、大学院に進学することもできる。あるいは他の地域中核病院（上記参照）での臨床に従事する。
- ③ 大阪大学関連施設で臨床に従事する。